

HDE Controller[®] ***3.0*** ***ISP Edition***

バーチャルドメイン運用ガイド

HDE Controller 3.0 ISP Edition バーチャルドメイン運用ガイド もくじ

1. 概要	1
1. HDE Controller 3.0 ISP Editionとは	2
2. バーチャルドメイン運用ガイドの読み方	3
2. マシンの設定	5
1. 概要	6
2. ネットワークの基本設定	7
3. セキュリティの設定	10
4. メールサーバーの設定	12
5. Webサーバーの設定	14
6. ネームサーバーの設定	15
7. FTPサーバーの設定	17
3. バーチャルドメイン	19
1. 概要	20
2. バーチャルドメインの作成	21
3. バーチャルドメインの管理	27
4. バーチャルドメイン管理画面のアクセス	29
5. Webサーバーの管理	30
6. メールサーバーの管理	33
7. メールングリストの管理	35
8. ネームサーバーの管理	37
9. FTPサーバーの管理	38
10. ユーザーの管理	39
4. バーチャルドメインユーザー	43
1. 概要	44
2. 個人情報の変更	46
3. ファイルマネージャー	48

HDE Controller 3.0

1. 概要

1. 概要

1. HDE Controller 3.0 ISP Editionとは

HDE Controller 3.0 ISP Editionとは

HDE Controller ISP Edition とは、Linux ディストリビューションの上で動作し、バーチャルドメイン機能を提供するアプリケーションです。バーチャルドメイン機能の実現には、qmail や apache など、標準的で安定性に定評のあるソフトウェアを使用しています。そのため、他システムやクライアントとの親和性・接続性に優れています。また、全ての操作を HDE Controller シリーズで定評のある統一・洗練された管理インターフェース上から行うことが可能であり、複雑なバーチャルドメインの設定を簡易に行うことができます。

バーチャルドメインとは

バーチャルドメインとは、一台のホストが複数のドメインのメール・Web 等のサービスを行い、あたかも複数のホストが存在するかのように振る舞う機能のことを言います。

バーチャルドメインの種類には、ホストが複数の IP アドレスを所持し、接続先として指定された IP アドレスによりバーチャルドメインを切り替える「IP ベースバーチャルドメイン」と、一つの IP アドレスしかなくても、呼び出されたドメイン名からバーチャルドメインを切り替える「名前ベースバーチャルドメイン」があります。HDE Controller ISP Edition では、両方のタイプのバーチャルドメインを作成する事ができます。

2. バーチャルドメイン運用ガイドの読み方

バーチャルドメイン運用ガイドの読み方

当運用ガイドは大きく 3 つの章に分かれています。マシンの設定では、バーチャルドメインを作成するために必要なマシン及び各サービスの基本的な設定について記述されています。バーチャルドメインでは、バーチャルドメインの作成・管理方法からバーチャルドメイン管理者が行う各サービスの設定・運用方法について記述されています。バーチャルドメインユーザーでは、バーチャルドメインのユーザーが管理画面から行える事について記述されています。なお、各設定項目の詳細な入力方法等につきましては、パッケージに同梱されているマニュアル及びオンラインマニュアルに記載されておりますので、そちらもあわせてご参照いただけるよう、お願いします。

なお、当運用ガイドは主に名前ベースのバーチャルドメインについて記載されていますが、IP ベースのバーチャルドメインにつきましても同様に設定行ってください。IP ベースまたは名前ベースのバーチャルドメイン独自の箇所につきましては、文中の注意書きに従ってください。

HDE Controller 3.0

2. マシンの設定

2. マシンの設定

1. 概要

HDE Controller をご利用いただく際に必要なマシン側の設定についてご説明します。

HDE Controller では、各種設定をおこなう際に必要な情報をマシンの設定情報から利用します。

バーチャルドメインの設定をおこなう前に以下の情報についてご確認ください。

- ・ マシンの IP アドレスの確認

ネットワークカードがマシンに 2 枚インストールされている場合は、どちらかのカードが 1 枚のみインストールされている場合は、そのカード自身がグローバル IP で設定されることを推奨します。

- ・ ディスクパーティションの確認

これから設定する各バーチャルドメインに対してディスク容量制限をおこなう場合は /home を独立して設定しておく必要があります。

また、/ や /usr に対しても HDE Controller が一時ファイルを作りますので配慮してください。

管理画面へのアクセス

管理者が管理画面にアクセスするには、対応ブラウザにて以下の URL にアクセスします。

https://ホストの FQDN または IP アドレス]:16590/

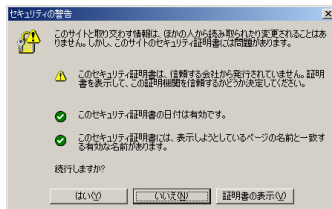


図.1: セキュリティ警告ダイアログ

セキュリティ警告画面が表示されますので、「はい」をクリックして続行します。

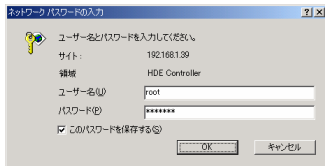


図.2: 認証ダイアログ

認証ダイアログには以下のように入力します。

ユーザー名	root
パスワード	root のパスワード

2. ネットワークの基本設定

基本的な設定は、OS インストール時に終了していますので

ここでは、現在の設定について HDE Controller を利用して確認及び設定をおこないます。

このガイドでは、バーチャルドメインの作成に重点をおいていますので、ルーティングの設定やポートフォワーディング設定につきましては、ユーザーマニュアルをご参照ください。

一般設定

基本設定

マシンのホスト名、ドメイン名、ネームサーバーを設定することができます。

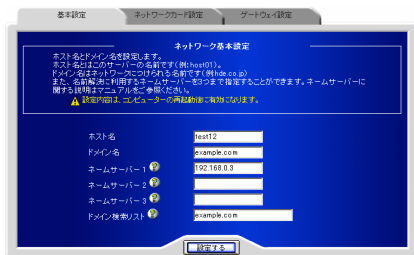


図.3: Network_main

ネームサーバーの項目では、このマシン上に DNS サーバーを設定する場合は必ず、マシン自身をネームサーバー 1 に設定をしてください。例)127.0.0.1 等

ネットワークカード設定

マシンのインストールされているネットワークカードが表示されます。

ネットワークカードの情報を確認したり、変更するには編集したいネットワークカードの「編集ボタン」をクリックします。

ネットワークカードの設定画面が表示されますので表示されている情報について編集することができます。

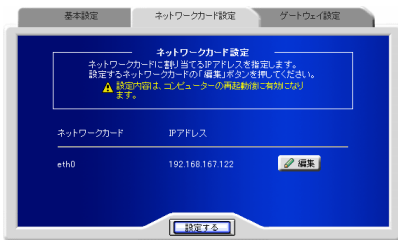


図.4: NIC_Info

2. マシンの設定



バーチャルドメイン設定後は、IP アドレスの変更をおこなわないでください。

ゲートウェイ設定

マシンがゲートウェイとする IP アドレスやゲートウェイへのマシン側のデバイスの情報を編集することができます。IP 転送及び IP マスカレードは、ネットワークカードが 2 枚インストールされている場合に有効にすることが可能です。

IP エイリアス設定

IP ベースのバーチャルドメインを設定する場合には、割り当てる IP アドレスをサーバーに対して IP エイリアスとして設定しておく必要があります。

IP エイリアスの追加をするには、IP エイリアスを追加したいネットワークカードを選択して「追加ボタン」をクリックしてください。



IP エイリアスに利用する IP アドレスは、グローバル IP アドレスを推奨します。

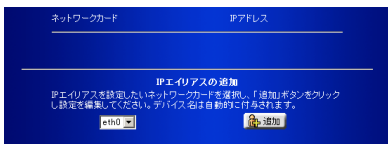


図.5: IP_Alias

ネットワークカード設定画面になりますので、以下のように設定します。

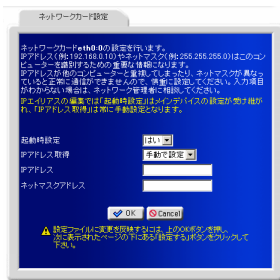


図.6: NIC_Set

起動時設定	はい
IP アドレス取得	手動で設定
IP アドレス	
ネットマスクアドレス	

設定を入力したら、「OK」ボタンをクリックします。

IP エイリアスの追加画面になりますので、「設定する」ボタンをクリックしてください。

設定が完了すると、設定をおこなったネットワークカードと IP アドレスが表示されます。

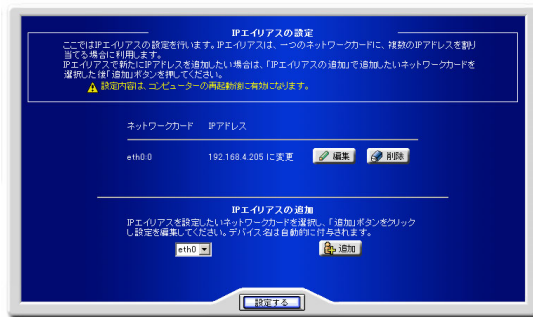


図.7: IP_Alias2

修正したい場合は、該当するネットワークカードの「編集」ボタンをクリックしてください。

2. マシンの設定

3. セキュリティの設定

外部や LAN 内からのアクセスをパケットフィルタ iptables や TCP Wrapper を利用して制限をおこなうことが可能です。ルーターやファイアウォール等で制限をおこなっている場合は、こちらの設定は必須ではありません。また、設定をおこなう際は「全て拒否」をしてから必要なサービスを「公開」するように設定します。

TCP Wrapperを利用した設定(簡易設定/一般設定)

簡易設定では、全体(ALL)に対しての設定をおこなうことができます。

IP アドレスを指定したり、個別のサービスに対して設定をする場合は一般設定よりおこないます。



対象ホストを指定して許可した場合、対象サービスについて全て拒否する設定も必要になります。拒否する設定がない場合は対象ホスト以外にも許可された状態になります。

特定のホスト(IP アドレス)からの ssh 以外のアクセスを全て拒否する場合は、

1. 対象サービス：全て、ポリシー：拒否、対象ホスト：全て を指定して「追加」ボタンをクリックします。
2. 対象サービス：ssh、ポリシー：許可、対象ホスト：許可したい IP を指定して「追加」ボタンをクリックします。
3. 「設定する」ボタンをクリックして設定をします。



複数のホストを指定したい場合は、スペース区切りで入力します。

設定完了後の画面は、以下ようになります。

ここではアクセスポリシーの追加を行います。セキュリティを高めるために基本的に全てのサービスを拒否し、許可するサービスを個別に設定すると良いです。アクセス設定は、以下のルールに依って適用されます。そのサービスが、
-「許可」と「拒否」の両方で設定されている場合、「許可」が優先されます。
-どちらにも設定されていない場合は「許可」とみなされます。

対象サービス	ポリシー	対象ホスト	オプション
<input type="radio"/> 選択してください	<input type="radio"/> 許可	<input type="radio"/> 全て	root@localhde.co.jp
<input type="radio"/> サービス名	<input type="radio"/> 拒否	<input type="radio"/> IPアドレス指定	ヘルム送信

追加

アクセスポリシー一覧			
対象サービス	対象ホスト	ポリシー	オプション
全て	全て	拒否	オプションなし
sshd	192.168.4.204	許可	root@example.comヘルム送信

設定する

図.8: Policy

パケットフィルタを利用した設定(簡易設定/一般設定/詳細設定)

簡易設定では、各サービスが利用する一般的なポートに対して全てのホストから公開/非公開の設定をおこなうことができます。

各サービスについて、特定のホストを対象にしたい場合は一般設定でおこないます。

また、一覧にサービスがない場合や詳細な設定をおこないたい場合は詳細設定でおこなってください。



HDE Controller は、ユーザーの管理画面も含まれますのでご注意ください。

簡易設定を利用した場合の一般的な例

サービス	ポート番号	アクション
Webサーバー	80 443 444	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
ネームサーバー	53	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
メールサーバー	25 109 110 143 220	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
PostgreSQLサーバー	5432	<input type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
MySQLサーバー	3306	<input type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
NTPサーバー	123	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
FTPサーバー	20 21	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
Telnetサーバー	23	<input type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する
SSHサーバー	22	<input checked="" type="checkbox"/> 公開する <input type="checkbox"/> ログ記録する

必要最小限のサービスだけを公開するようにしてください。

以下のネットワークからのアクセスは全てのポートに対し許可します
eth0(192.168.0.0/16)

HDE Controllerをどのホストに公開しますか? -- ポート番号:16590

自分の属するネットワーク eth0(192.168.0.0/16)

全てのネットワーク

特定のIPアドレス

図.9: Rule

- 基本となるポリシーは公開しない
- メールサーバー、FTPサーバー、Webサーバー、ネームサーバーは基本的には公開します。
- Telnetサーバー、SSHサーバー、は必要に応じて公開します。(例ではSSHサーバーを公開しています。)
- NTPサーバー(タイムサーバー)は、外部のNTPサーバーと時刻を同期させたい場合は公開します。
- HDE Controllerは全てのネットワークに対して公開します。

SSHサーバーは、ここでは全てに対して公開されていますが

TCP Wrapperの設定で、特定のホストのみ許可していますので許可されたホスト以外のアクセスは拒否します。

2. マシンの設定

4. メールサーバーの設定

HDE Controller をインストールした直後の状態では、メールサーバーとしての設定が不足していますのでメールサーバーの設定をおこない、必要な情報を設定する必要があります。

ここでは、メールサーバーとして動作させるための設定についてご説明します。

基本設定

基本設定

電子メールを受け付ける(受信する)ドメインを確認します。

このマシンのドメイン名が登録されています。

送信できるメールの最大長(サイズ)を設定します。

制限をおこなう場合は、「制限する」にチェックをいれてバイト数を入力します。

制限をおこなわない場合は、「制限しない」にチェックをいれておきます。(デフォルト)



メールでのバイト数は、エンコードされていますので実際のサイズより大きく(約 1.4 倍)なります。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。

詳細設定

HDE Anti-Virus for GATEWAY や他のアンチウイルス等を利用する際に、SMTP のポート番号を変更したい場合は詳細設定から設定をおこなうことができます。

SMTP のポート番号を変更するには、qmail-smtpd のポート番号を「待ち受けポート番号の変更」にチェックをして、変更後のポート番号を入力します。「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。



変更されたか確認するには、以下のようにコマンドを実行します。(9025 に変更した場合)

```
$ telnet localhost 9025
Trying 127.0.0.1...
Connected to localhost.localdomain.
Escape character is '^]'.
220 xxx.xxx.xxx ESMTP
quit
221 xxx.xxx.xxx
```

- 220 xxx.xxx.xxx ESMTP の場合は、変更が有効になっています。

- ・ telnet: Unable to connect to remote host: Connection refused の場合は有効になっていないので、もう一度設定してください。

アクセス制御

HDE Controller では、デフォルトで「POP before SMTP」「SMTP AUTH」が利用できますので、いずれかの方法により外部からのこのマシンを経由した送信がおこなえますが、アクセス制御を明示して設定することで、いずれかの方法を問わず送信することが可能になります。

転送不明メール設定

サーバーが管理しているドメインに対して、存在しないユーザー宛に送信されたメールの処理方法を設定します。

2. マシンの設定

5. Webサーバーの設定

HDE Controller をインストール時に基本的な設定は完了していますので、ここで設定をおこなう必要はありません。

また、WEB を公開する場合には極力バーチャルドメインを利用して公開をおこなってください。

各機能の詳細につきましては、ユーザーマニュアルをご参照ください。



バーチャルドメインのユーザーに対して CGI/SSI の許可をする場合は、リアルドメイン側で設定をおこないます。

バーチャルドメインのユーザーにCGI/SSIを許可するには

「ディレクトリ追加」では、以下のように許可させるディレクトリを追加します。

特定のドメインのユーザーのコンテンツディレクトリ(public_html)に、許可するにはディレクトリに、/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/users/*/public_html を入力して CGI/SSI を許可にします。

ユーザーのコンテンツディレクトリ(public_html)以下に cgi-bin を配置する場合は特定の「ディレクトリに、/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/users/*/public_html/cgi-bin を入力して CGI/SSI を許可にします。

全てのドメインのユーザーのコンテンツディレクトリ(public_html)に、許可するにはディレクトリに、/home/lcvirtualdomain/*/users/*/public_html を入力して CGI/SSI を許可にします。

6. ネームサーバーの設定

既に、このマシンに与えられたホスト名が他のネームサーバーで管理されている場合はここで設定をおこなう必要はありません。
新規にドメインを立ち上げる場合は、この章にしたがって設定をおこなってください。



設定をおこなう前に、加入されているプロバイダー等よりネームサーバーの設定情報（プレフィックスに指定する文字等）を入手しておいてください。

ドメイン追加

ドメイン追加

新たにドメインを追加します。
ここで設定するドメインはプライマリストと呼ばれ、このサーバーがドメイン管理権を持ち、すなわち上位のドメインのDNSサーバーにより権限を委任されたドメインのデータを持ち、そのデータの問い合わせを受けようになります。

ネットワークアドレス選択

現在のシステムのネットワークアドレス 192.168.0.0/16
その他

ネットワーク種別選択

ODN
「その他の専用線」を選択した場合は下記の逆引きプレフィックスを入力してください。
プレフィックス xxxxx.xxx.xxx.in-addr.arpa

ドメイン名 example2.com
管理者メールアドレス root@example2.com
セカンダリDNSサーバーのホスト名 ns2.example.com
セカンダリDNSサーバーのIPアドレス 192.168.0.5
 逆引きゾーンを自動作成する。

図.10: Add_domain

- ネットワークアドレス選択では、現在のシステムのネットワークアドレスを選択してください。
- ネットワークアドレス種別選択では、プルダウンメニューに事前に調査したタイプがある場合はそちらを選択します。
メニューにない場合は、「その他の専用線」を選択してプレフィックスを入力してください。
例では、OCN(フレッツ)を選択しています。
- ドメイン名では、リアルドメインとするドメイン名を入力してください。
- 管理者メールアドレスでは、このドメインの管理者となるメールアドレスを入力してください。
- セカンダリDNSサーバーのホスト名とIPアドレスでは、事前に調査した際に指定されている場合は入力してください。
- 逆引きゾーンを自動作成するには、チェックをいれておきます。

矢印をクリックして次にすすみます。

2. マシンの設定

ホスト情報の追加

先にネームサーバーの情報を追加します。

- ・ ホスト種別では、DNS サーバーを選択します。
- ・ ホスト名では、このドメインをレジストラに登録した際に申請したホスト名を使用します。
- ・ 値では、このマシンの IP アドレスを入力します。

他のホスト名も登録したい場合は、同様にして追加をおこなってください。

追加が終了したら、「設定する」ボタンをクリックして設定します。

ここで追加をおこなわなかった場合でも「レコード管理」機能を利用して追加が可能です。

ネームサーバーが正しく設定されたか確認します。

このマシンのコンソール画面より、以下のようにして確認することができます。

```
ホスト名 -> IP アドレス (正引き)
$ host test.local.hde.co.jp <-入力
test.local.hde.co.jp has address 192.168.189.104 <-サーバーの応答
IP アドレス -> ホスト名 (逆引き)
$ host -t ptr 192.168.189.104 <- 入力
104.189.168.192.in-addr.arpa domain name pointer 192.168.189.104.xxx.xxx.xxx.xxx <- サーバーの応答
```



加入先のプロバイダー等の設定が済んでいない場合や、このマシンが外部と通信できない場合に逆引きが確認できないことがあります。

7. FTPサーバーの設定

このマシンのFTPサーバー全体に対する設定をおこなうことができます。

基本設定

Anonymous FTPの設定

このマシン上に存在しないユーザーをログインさせたい場合等に設定します。

不特定のログインを受け付けるようになりますので、通常は無効にしておくことをお勧めします。

ポート設定

Passiveモード利用時に、データ転送に利用されるポートを制限することができます。

ルーターやファイアウォール等で公開するポートを制限する場合に、ここで設定したポート番号が利用できます。

HDE Controller 3.0

3. バーチャルドメイン

3. バーチャルドメイン

1. 概要

この章では名前ベースのバーチャルドメインを例にとり、実際のバーチャルドメインの作成方法及びその運用方法について解説します。IP ベースのバーチャルドメインに関しましても基本的には同様の操作でお使いいただけます。名前ベース及び IP ベースのバーチャルドメイン固有の操作に関しましては、文中にその旨が記述されておりますのでご注意ください。

2. バーチャルドメインの作成

この項ではバーチャルドメインの作成方法について解説します。バーチャルドメインを作成して運用するためには、作成前に適切にマシンを設定しておく必要があります。マシンの設定方法につきましては、マシンの設定の章をご参照ください。メインメニューの「バーチャルドメイン管理」をクリックし、サブメニューの「バーチャルドメイン追加」をクリックします。

バーチャルドメイン基本情報の設定

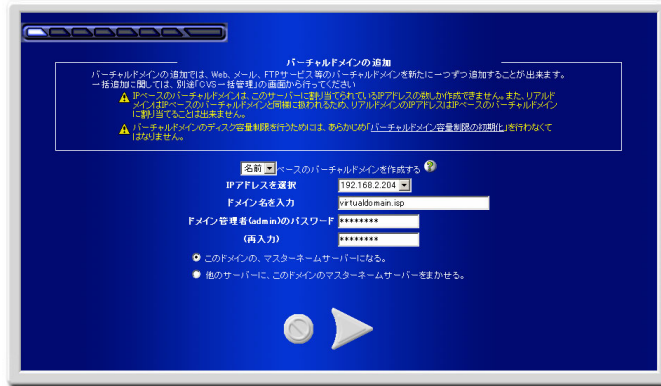


図.11: バーチャルドメイン基本情報入力画面

この画面では、バーチャルドメインの基本情報を入力します。

「名前」ベースのバーチャルドメインを選択します。この章では例として、virtualdomain.isp を入力したものと仮定します。

複数のネットワークインターフェースを備えたシステムでは、「IP アドレスを選択」で、バーチャルドメインサービスを提供するインターフェースの IP アドレスを選択します。

バーチャルドメイン名を、「ドメイン名を入力」の欄に入力します。

ドメイン管理者(admin)のパスワードをパスワード入力欄及び再入力確認欄に入力します。ここで入力された値がバーチャルドメインの管理者(admin)が、管理画面にログインする際のパスワードになります。絶対に忘れてしまわないようご注意ください。

マスターネームサーバーの選択チェックボックスでは、自分自身がそのドメイン(virtualdomain.isp)のマスターネームサーバーとなる場合には「このドメインの、マスターネームサーバーになる」を選択します。このチェックを入れることにより、ネームサーバーに自動的にそのバーチャルドメインのエントリが追加されます。他のネームサーバーがマスターネームサーバーになっている等、特にその必要が無い場合は、「他のサーバーに、このドメインのマスターネームサーバーをまかせろ」を選択します。この章では、例として自分自身がマスターネームサーバーとなった場合を仮定して設定を進めてゆきます。

3. バーチャルドメイン

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



「名前ベース」と「IP ベース」のバーチャルドメインの違いについて

HDE Controller 3.0 ISP では、名前ベースと IP ベースのバーチャルドメインの違いは DNS の逆引きが可能か否かという以外に完全に無くなりました。IP アドレスを消費せず、便利になった名前ベースバーチャルドメイン機能をご利用ください。

テンプレート使用の選択

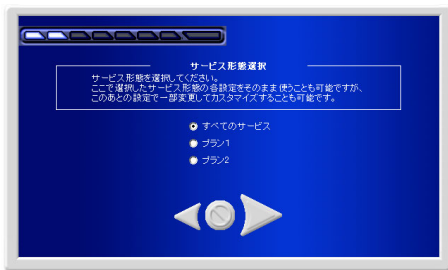


図.12: テンプレートの選択画面

HDE Controller ISP Edition では、バーチャルドメイン毎にきめ細かい使用サービスや制限等の設定を行うことができます。これらの設定をテンプレートとして登録する事により、同じ権限を持ったバーチャルドメインを簡易に作成することができます。

テンプレートを作成していない状態では、「すべてのサービス」というテンプレートが唯一選択可能な状態になっています。この章では、これを選択したものと仮定して設定を進めてゆきます。テンプレートの使用方法につきましては、マニュアルをご参照ください。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

使用サービスの設定

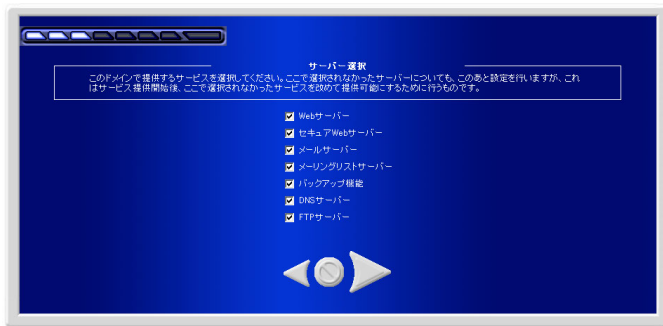


図.13: サーバー選択画面

作成しようとしているバーチャルドメインで提供するサービスを選択します。不要なサーバーを選択から外すことにより、システムの負荷を下げるすることができます。この章では、全てのサーバーを選択したものと仮定して設定を進めてゆきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

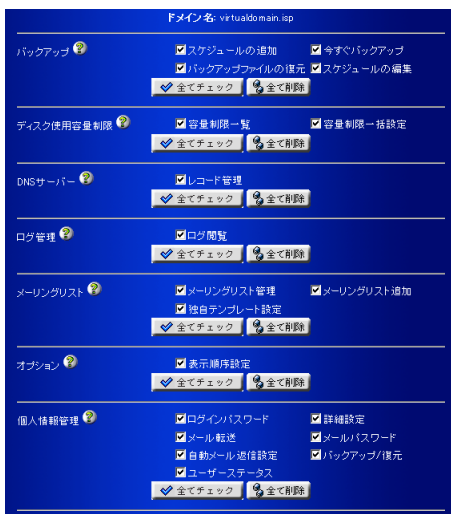


図.14: 運用メニュー設定画面

バーチャルドメインの管理画面に表示されるメニューを選択します。作成したバーチャルドメインの管理者が HDE Controller の管理画面にログインすると、この画面で選択したメニューが表示されます。

各メニューはサブメニューに分割されており、サブメニュー単位で設定することができます。全てのサブメニューが選択されていないメニューはメインメニューに表示されなくなります。

使用方法の一例として、前画面の「サーバー選択画面」で「Web サーバー」の使用を選択しつつ、「運用メニュー設定」の「Web サーバー」の選択を外すような運用方法が考えられます。こうすることにより、Web サービスを利用することはできても、バーチャルドメインの管理者が Web 公開ディレクトリの設定を行うことができないようなバーチャルドメインを作成することができます。

特に制限をかける必要がなければ、デフォルトの全て選択された状態で問題はありません。この章では、特に制限をかけなかったものとし仮定して設定を進めてゆきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

3. バーチャルドメイン

各種制限の設定

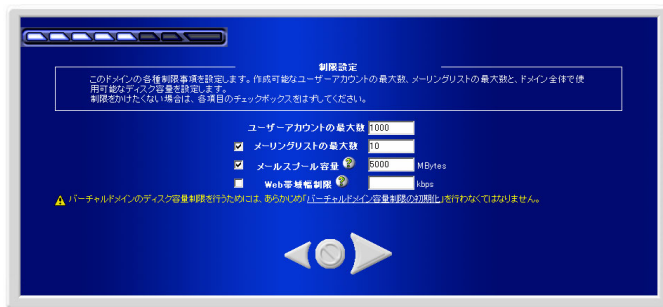


図.15: 制限設定画面

バーチャルドメインの各種制限を設定します。制限をかけたい項目の左のチェックボックスをチェックし、制限値を入力します。「ユーザーアカウントの最大数」は、必ず入力する必要があります。なお、システム全体の制限値を越えた入力は入力不可あるいは無視されますので、ご注意ください。

特に制限をかける必要のない項目はチェックボックスを外しておきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



Web ログはディスク容量制限には含まれません。また、メールスプールにたまったメールは「メールスプール容量」にのみ制限され、「最大ディスク容量」には制限されません。

サービス毎の基本設定

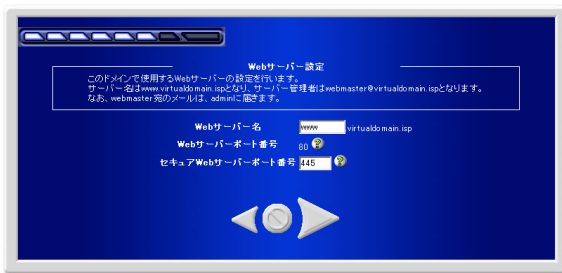


図.16: Web サーバー設定画面

バーチャルドメインの Web サーバー機能について設定します。

「Web サーバー名」には、バーチャルドメインの Web サーバーとして公開する名前を設定してください。なお、バーチャルドメイン名のみでもアクセスすることが可能です。例をあげると、virtualdomain.isp バーチャルドメインの Web サーバー名として「www」を設定すると、http://www.virtualdomain.isp/もしくは http://virtualdomain.isp/としてアクセスできるようになります。

「セキュア Web サーバーポート番号」には、セキュア Web(https)アクセスに使用するポート番号を指定します。「セキュア Web サーバーポート番号」は、システム内でユニークである必要があります。デフォルト値として現在使用されていない値が表示されていますが、変更される場合は他のバーチャルドメインで使用しているポート番号と衝突しないよう、ご注意ください。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



図.17: メールサーバー設定画面

メールサーバー名を指定します。自ホストがマスターネームサーバーとなっている場合には、この入力値がメールサーバーとして設定されます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

設定終了確認



図.18: 設定終了確認画面

以上で全ての設定は終了します。バーチャルドメインを使用するためにネームサーバーに登録しなくてはならない内容が表示されますので、この値をバーチャルドメインのマスターネームサーバーに登録します。なお、この自ホストがマスターネームサーバーになる場合は自動的に登録されます。

「設定する」ボタンをクリックすると、バーチャルドメインが作成されます。この処理には時間がかかる場合がございますので、しばらくお待ちください。

3. バーチャルドメイン

サブドメインの追加

バーチャルドメインのサブドメインを登録するには、通常のバーチャルドメインを登録する場合と同様に設定することで登録することができます。



バーチャルドメインのサブドメインを「CSV一括追加」機能で登録すると、自ホストがマスターネームサーバーになるように指定した場合でも、親ドメインにサブドメインのNSレコードが追加されません。「DNSサーバー」 - 「レコード管理」を使用して手動で登録する必要があります。

3. バーチャルドメインの管理

バーチャルドメインの作成にて設定したバーチャルドメインの削除及び内容の変更を行うことができます。メインメニューから「バーチャルドメイン管理」をクリックし、サブメニューから「バーチャルドメイン管理」をクリックすると、「バーチャルドメインの管理」画面が表示されます。この画面には、現在登録されているバーチャルドメインの一覧がリスト表示されています。

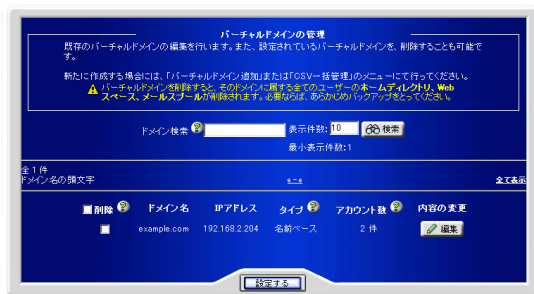


図.19: バーチャルドメイン管理画面

バーチャルドメインの変更

「バーチャルドメインの管理」画面に表示されている各バーチャルドメイン一覧の右側にある、「編集」ボタンをクリックすると、その設定内容を変更することができます。

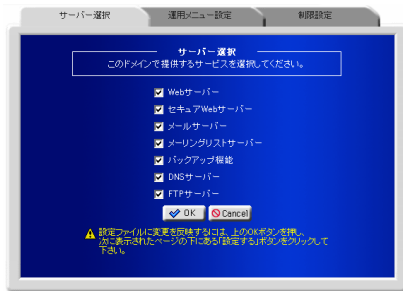


図.20: バーチャルドメイン編集画面

変更できる内容は、「使用サーバーの選択」「運用メニューの選択」「各種制限設定」です。バーチャルドメイン名等、基本情報の変更を行うことはできません。変更項目の詳細につきましては、「バーチャルドメインの作成」の章及びマニュアルをご参照ください。

変更が終了しましたら、「OK」ボタンをクリックして「バーチャルドメインの管理」画面に戻り、「設定する」ボタンをクリックします。以上でバーチャルドメインの変更が完了します。

3. バーチャルドメイン

バーチャルドメインの削除

作成したバーチャルドメインを削除するには、「バーチャルドメインの管理」画面に表示されている各バーチャルドメイン一覧の左側にある「削除」チェックボックスにチェックを入れて選択します。

削除ドメインの選択が終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックします。以上でバーチャルドメインの削除が完了します。

4. バーチャルドメイン管理画面のアクセス

バーチャルドメインの管理者が管理画面にアクセスするには、対応ブラウザにて以下の URL にアクセスします。

https://ホストの FQDN または IP アドレス]:16590/

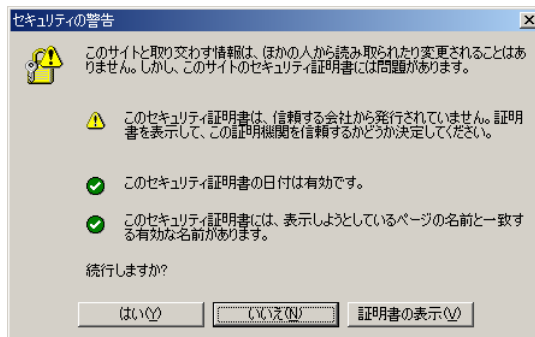


図.21: セキュリティ警告ダイアログ

セキュリティ警告画面が表示されますので、「はい」をクリックして続行します。

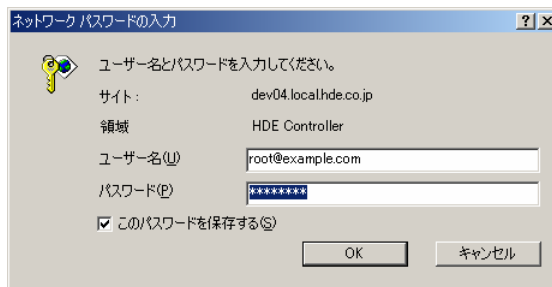


図.22: 認証ダイアログ

認証ダイアログには以下のように入力します。

ユーザー名	[ユーザ名]@[バーチャルドメイン名](例:admin@virtualdomain.isp)
パスワード	バーチャルドメイン作成時に設定した管理者パスワード

3. バーチャルドメイン

5. Webサーバーの管理

Web サーバーの管理では、Web サーバーに関するバーチャルドメイン側の設定や設定変更をおこなうことができます。基本設定については、デフォルトの状態でも運用いただいても特に問題は発生しませんが、ご利用される環境に応じて変更をおこなってください。

Webサーバー設定

基本設定

通常は変更する必要がありません。

詳細設定

- ・ バーチャルドメインのユーザーが Web を公開する際に利用される URL タイプを選択します。運用ポリシーに合わせて選択をしてください。
- ・ サーバログに、エージェント/参照元/画像 についてのアクセスを記録するか選択します。
- ・ リモートホスト名の逆引きについて選択します。



サーバログで、「記録しない」を選択した場合やリモートホスト名の逆引きをしない場合「アクセスランキング」のブラウザレポート/リンク元 URL レポート/ファイル種類別レポートやホストレポートが正しく表示されなくなります。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。

詳細設定 (セキュアWebサーバー)

バーチャルドメインのユーザーが、SSL 化された Web を公開する際に html ファイルをアップロードする場所を指定できます。

デフォルトでは、通常の Web を公開するディレクトリと同じに設定されていますが、異なるディレクトリを利用したい場合は「通常の Web サーバーと異なる場所に置く」にチェックをして、ディレクトリを入力します。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。



ユーザー毎に設定することはできません。全てのユーザーに対して有効になります。

エラーメッセージ設定

運用ポリシーに合わせて選択をしてください。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。

CGI/SSIの設定について

HDE Controller では、ドキュメントルートの下(/home/lcvirtualdomain/domain/htdocs/cgi-bin)に cgi-bin ディレクトリが設定済ですが、ディレクトリを事前に作成しておく必要がありますので、FTP クライアントソフトやファイルマネージャーを利用して htdocs の下に cgi-bin ディレクトリを作成する必要があります。上記以外のディレクトリやドキュメントルートに対して CGI/SSI を有効に設定するには、ディレクトリの管理/追加でおこないます。

「ディレクトリ追加」画面で、設定したいディレクトリを入力して CGI/SSI の使用可を選択してください。

「矢印」ボタンをクリックして次の画面に移り「設定する」ボタンをクリックしてください。

追加したディレクトリにホストの制限をかけない場合は、ホストの制限はデフォルトのままにしておきます。

設定の変更は、「ディレクトリ管理」画面よりおこなうことができます。



バーチャルドメインのユーザーに CGI/SSI を許可する設定は、リアルドメインからのみおこなえます。

ディレクトリ認証について

特定のディレクトリにアクセスした際に、ログイン名とパスワードの入力を求めるように設定するには「ディレクトリ認証設定」画面でおこないます。

設定をおこなうには

1. 「ディレクトリ追加」画面で、認証を設定したいディレクトリを追加します。
2. 「ディレクトリ認証設定」画面で、追加しておいたディレクトリ名のフォルダーアイコンか「編集ボタン」をクリックします。
3. 「認証機能を有効にする」にチェックをして、ユーザー名とパスワードを入力して「追加ボタン」をクリックします。複数のユーザー名とパスワードを設定したい場合は、繰り返し追加してください。
4. 追加が完了しましたら、「戻る」ボタンをクリックして「設定する」ボタンをクリックしてください。

アクセスログの解析(アクセスランキング)について

「時間毎のレポート」や「一般的なレポート」から項目を選択して解析した結果を表示することができます。

この機能では、analog というプログラムが利用されており、各項目についての詳細や結果の見方につきましては日本 Analog ユーザー会(<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/~matsuki/analog/>)のホームページをご覧ください。

鍵と証明書(SSL)設定

既にサイト証明書を取得している場合

「鍵・証明書のアップロード」よりアップロードをおこなってください。

新規にサイト証明書を取得する場合

3. バーチャルドメイン

以下の手順で証明書署名要求(CSR)を作成して、お申し込みください。

1. 「Web サーバーの SSL キー設定」画面で、必要事項を入力し、「新しい SSL 秘密鍵/公開鍵のペアと、証明書を作り直します。」にチェックをして「設定する」ボタンをクリックします。
2. 証明書署名要求(CSR)が作成されていますので、「鍵・証明書のダウンロード」画面より証明書署名要求(CSR)をダウンロードして証明書発行機関に申請してください。
3. 発行されたサイト証明書を「鍵・証明書のアップロード」よりアップロードをおこなってください。

Webコンテンツのアップロードについて

FTP クライアントソフトを利用して Web コンテンツをアップロードするには、以下のようにクライアントソフトを設定してください。

- ・ サーバー名 : ftp.ドメイン名
- ・ ユーザー名 : admin@ドメイン名
- ・ パスワード : admin のパスワード
- ・ リモートホストの初期フォルダー : htdocs(SSL の場合は、htdocs_ssl)

ユーザー用の設定

- ・ サーバー名 : ftp.ドメイン名
- ・ ユーザー名 : ユーザー名@ドメイン名
- ・ パスワード : ユーザーのパスワード
- ・ リモートホストの初期フォルダー : public_html

6. メールサーバーの管理

バーチャルドメインのメールサーバーに関する各種設定を変更することができます。
メインメニューの[メールサーバー]をクリックし、メールサーバー設定画面に入ります。

スプール容量制限

サブメニューから、「スプール容量制限」メニューをクリックします。

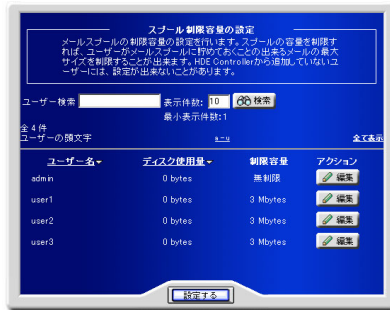


図.23: スプール制限容量の設定画面

スプール制限容量の設定画面には、ユーザーの一覧及び現在のスプール容量制限値が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

ユーザーリスト右側の「編集」ボタンをクリックすると、「メールスプール容量設定」画面に入り、対象ユーザーのメールスプール容量を設定することができます。

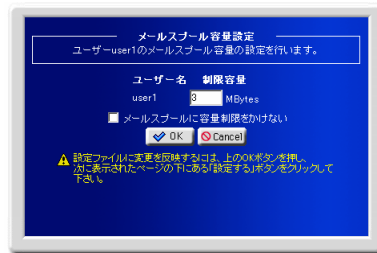


図.24: メールスプール容量設定画面

制限容量をメガバイト単位で指定します。特に制限をかけない場合は、「メールスプールに容量制限をかけない」チェックボックスにチェックを入れます

設定が終了しましたら、「OK」ボタンをクリックして「スプール制限容量の設定」画面に戻ります。「設定する」ボタンをクリックすると、設定が有効となります。

3. バーチャルドメイン

エイリアス設定

サブメニューから、「エイリアス設定」メニューをクリックします。

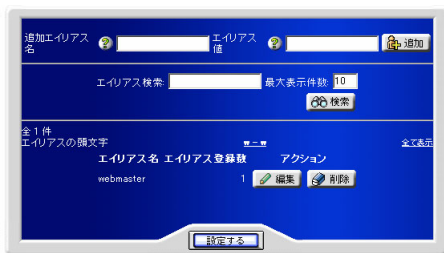


図.25: エイリアス設定画面

メールアドレスのエイリアス(別名)を設定することができます。追加を行う別名を「追加エイリアス名」に入力し、実際のメール配送先となるアドレスを「エイリアス値」に入力し、「追加」アイコンをクリックすると下部のリストに追加されます。

設定値の削除・編集を行うには、リスト右側の「削除」「編集」アイコンをクリックします。

リストの編集が終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックするとエイリアス値が有効となります。

宛先不明メール転送設定

サブメニューから、「宛先不明メール転送設定」メニューをクリックします。

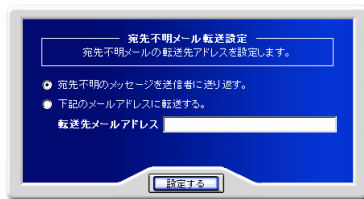


図.26: 宛先不明メール転送設定画面

バーチャルドメインの存在しないアカウント宛てに届いたメールをどのように処理するか設定することができます。

送信者に送り返す、もしくは指定のメールアドレスに送信することができます。

入力終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックして設定を有効にします。

7. メーリングリストの管理

HDE Controller ではメーリングリストの作成・管理をブラウザ上から簡単に行うことができます。個々の機能につきましては、マニュアルに詳細に記述されておりますので、そちらをご参照ください。この章では、典型的なメーリングリストの作成・削除方法を、順を追って解説します。

メーリングリストの作成

メインメニューの[メーリングリスト]をクリックし、メニューの[メーリングリスト追加]をクリックします。

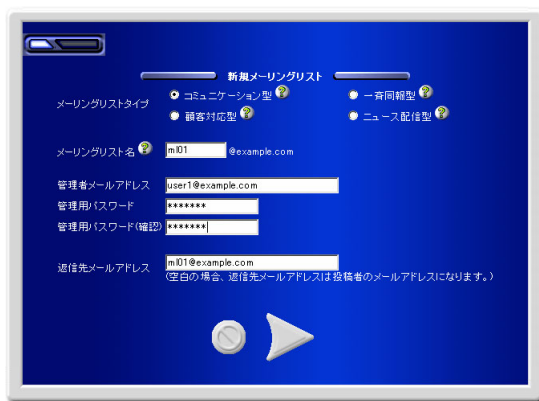


図.27: バーチャルドメイン基本情報入力新規メーリングリスト画面

例として、「コミュニケーション型」のメーリングリストを作成します。このタイプは、「参加・脱退は自由」「メンバーは参加者名簿の閲覧が可能」「参加者以外の発言を禁止」という特徴を持っており、コミュニティ内での交流に適したタイプです。

「メーリングリスト名」を設定します。ドメイン部は常に自分のバーチャルドメイン名となります。

「管理者メールアドレス」に、管理者のメールアドレスを設定します。

「管理者用パスワード」に、パスワードを設定します。設定されたパスワードはコマンドメールの承認等に使用されます。

「返信先メールアドレス」を設定します。この欄が空欄になっていると、返信先として送信者のアドレスが設定されます。「コミュニケーション型」のメーリングリストの場合には、返信先がメーリングリストに設定されている方が好ましいので、「メーリングリスト名」と同じアドレスを入力してください。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

3. バーチャルドメイン



図.28: ml のメンバー変更画面

この画面では、初期設定時のメーリングリストメンバーを設定します。前画面の管理者アドレスは自動的に設定されています。

アドレスの追加を行う場合は、1行に1アドレスの形式で左側の「追加メンバー」欄に記入し「追加」アイコンをクリックします。アドレスを削除する場合は、右側の「メンバー一覧」の欄から選択して「削除」アイコンをクリックします。

入力が全て完了しましたら、「設定する」アイコンをクリックします。以上でメーリングリストが作成されます。

メーリングリストの削除

メインメニューの[メーリングリスト]をクリックし、メニューの[メーリングリスト管理]をクリックします。

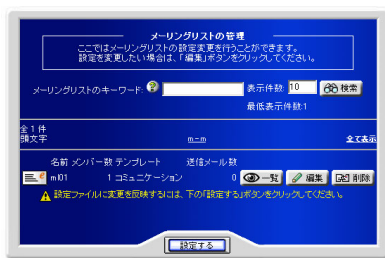


図.29: メーリングリストの管理画面

下部に現在登録されているメーリングリストの一覧が表示されておりますので、削除したいメーリングリストの「削除」アイコンをクリックします。「設定する」をクリックすれば、メーリングリストの削除が完了します。

8. ネームサーバーの管理

自バーチャルドメインのネームサーバーレコードを管理することができます。

メインメニューの[DNS サーバー]をクリックし、メニューの[レコード管理]をクリックします。



図.30: バーチャルドメイン基本情報入力新規メールリングリストレコード管理画面

「レコード」には、ホスト名を入力します。ドメイン部を変更することはできません。

「レコード種別」には、どのようなレコードを登録するかを入力します。

「レコードの値」には、「レコード」に対応する IP アドレスまたはホスト名を入力します。A レコードの値としてホスト名を入力することはできません。

ホスト名を登録する場合には、必ず末尾にドット"."を付与するようにします。

レコードを削除するには、各レコードの右側にある「削除」アイコンをクリックします。

全ての設定が終了したら、「設定する」ボタンを押します。以上でレコードの登録及び削除が完了します。

3. バーチャルドメイン

9. FTPサーバーの管理

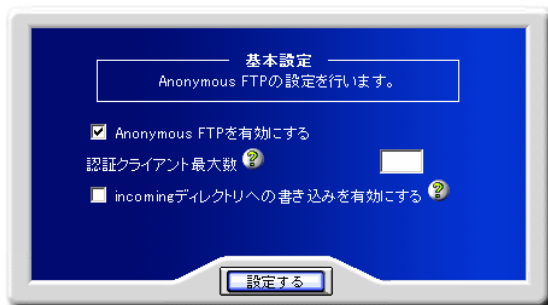


図.31: FTP サーバーの設定画面

FTP サーバーの設定を行うことができます。

メインメニューの[FTP サーバー]をクリックし、メニューの[基本設定]をクリックします。

Anonymous FTPの設定

Anonymous FTP とは、アカウント認証を必要とせずにシステムの公開領域への FTP アクセスを可能とする機能です。この機能を有効にするには、「Anonymous FTP を有効にする」チェックボックスをチェックします。また、「認証クライアント最大数」を設定することにより、同時アクセスユーザー数を制限することもできます。

チェックが終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。以上で Anonymous FTP の設定が有効になります。

incomingディレクトリの設定

incoming ディレクトリとは、不特定のユーザの FTP アップロードを許可するディレクトリです。この機能を有効にするには、「incoming ディレクトリへの書き込みを有効にする」チェックボックスをチェックします。

チェックが終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。以上で incoming ディレクトリの設定が有効になります。

Anonymous FTP 及び incoming ディレクトリ機能を有効にすると、限定された領域のみとはいえ、不特定のユーザーからのアクセスを許可するリスクを発生させることとなります。特に必要が無い場合は無効にしておく事をお勧めします。

10. ユーザーの管理

HDE Controller では、ブラウザ上からユーザーの管理を簡単に行うことができます。
メインメニューの[アカウント]をクリックし、アカウント管理画面に入ります。

ユーザーの追加

ユーザー追加
あと95人のユーザーを追加することができます。

ユーザー名(ログイン名) @example.com

パスワード

パスワード(再入力)

追加情報(本名など)

シェル

- /bin/sh
- 利用不可
- その他

メール

- POP及びAPOPで認証
- APOPのみで認証
- 利用不可

FTP

- 利用可
- 利用不可

アカウント有効期限

- 無制限
- 年--月--日

ホーム領域制限

警告容量 MBytes

最大容量 MBytes

メールスプール領域制限 MBytes

図.32: ユーザー追加画面

サブメニューから、「ユーザー追加」メニューをクリックします。

この画面の必要項目を入力し、「設定する」ボタンをクリックすることにより、新規ユーザーが追加されます。各設定項目の詳細につきましては、マニュアルをご参照ください。

作成されたユーザーがシェルまたはFTPでログインするには、ユーザー名をuser@virtualdomainの形式で入力します。例えば、パーチャルドメイン名が virtualdomain.isp で、ユーザー名が hde のユーザーがログインするためには、hde@virtualdomain.isp と入力する必要があります。ユーザー名(hde)だけではログインすることはできません。

「テンプレート設定」機能を使用することにより、ユーザー追加画面の初期値を変更することができます。

3. バーチャルドメイン

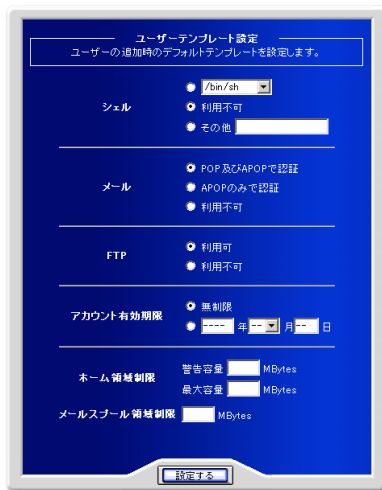


図.33: テンプレート設定画面

この機能を利用することにより、ユーザー追加画面での入力項目を省略することができます。

ユーザーの編集・削除



図.34: ユーザー管理画面

サブメニューから、「ユーザー管理」をクリックします。

ユーザー管理画面には、登録ユーザーの一覧が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

また、この画面からは、ユーザー情報の編集及び削除を行うことができます。ユーザー情報を編集するには「編集」アイコンを、削除するユーザーを指定するには「削除」アイコンをクリックします。編集アイコンをクリックすると、ユーザー情報編集画面が表示されます。項目を編集し「OK」ボタンをクリックすると、ユーザー管理画面に戻ります。

編集及び削除の指定が終了したら、「設定する」ボタンをクリックすることにより、設定が完了します。

アクセス権限設定

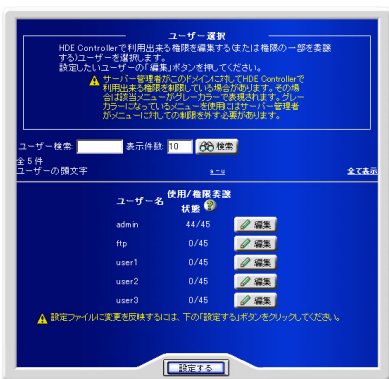


図.35: アクセス権限設定画面

サブメニューから「アクセス権限設定」をクリックします。

アクセス権限設定画面には、登録ユーザーの一覧及び現在のアクセス権限状態が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

アクセス権限を変更するには、ユーザーリストの右側の「編集」アイコンをクリックします。



図.36: 運用メニュー設定画面

一般ユーザーのデフォルト状態では、「個人情報管理」と「ファイルマネージャー」のみ使用可となっていますので、目的にあわせて権限を増減させてください。適切に設定することにより、メール転送機能を使用できないユーザーや、一般ユーザーでありながらユーザー追加権限を持ったユーザーを作成することもできます。

権限の選択が完了したら、「戻る」アイコンをクリックして一覧画面に戻り、「設定する」アイコンをクリックすることにより、設定が完了します。

3. バーチャルドメイン



一度も HDE Controller にログインしたことがなく、権限の変更を行っていないユーザーの「使用/権限委譲状態」は 0 と表示されています。

HDE Controller 3.0

4. バーチャルドメインユーザー

4. バーチャルドメインユーザー

1. 概要

バーチャルドメインの管理画面より、追加されたユーザーはバーチャルドメインユーザーとなり、このマシンに対して、メールサービスや Web サービス等を利用することができます。

また、管理画面にアクセスすることによりユーザーの各種個人情報等を変更することができます。

各サービスについてのクライアントソフト設定情報

メールサービス

- SMTP サーバー：mail.ドメイン名
- POP サーバー：mail.ドメイン名
- POP アカウント：ユーザー名@ドメイン名
(クライアントソフトによっては、@のかわりに%を指定することがあります。)
- POP パスワード：

FTP サービス

- FTP サーバー：ftp.ドメイン名
- アカウント：ユーザー名@ドメイン名
- パスワード：
- リモートホスト初期ディレクトリ：public_html

管理画面へのアクセス方法

ユーザーが、管理画面にアクセスするには、対応したブラウザにて以下の URL にアクセスします。

http://ホストの FQDN または IP アドレス:16590/

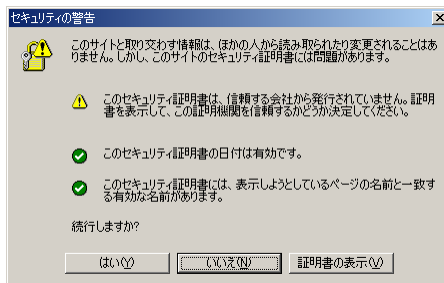


図.37: セキュリティ警告ダイアログ

セキュリティ警告画面が表示されますので、「はい」をクリックして続行します。

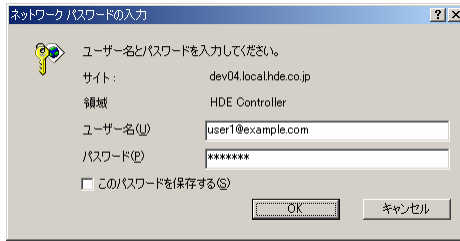


図.38: 認証ダイアログ

認証ダイアログには以下のように入力します。

ユーザー名	[ユーザー名]@[バーチャルドメイン名]
パスワード	ユーザー作成時に設定したユーザーのパスワード

4. バーチャルドメインユーザー

2. 個人情報の変更

ここでは、ログインしたユーザーに対しての様々な設定の変更について説明しています

ログインパスワード

HDE Controller にログインする為のパスワードが設定・変更できます。

現在のパスワードと新しいパスワードを入力してください。

「設定する」ボタンをクリックして設定が完了します。

詳細設定

ユーザー自身の追加情報を設定・変更できます。

一般的には本名などを設定しますが、必須ではありません。

入力欄に入力後、「設定する」ボタンをクリックして設定が完了します。

メール転送

ログインしているユーザー宛のメールを他のアドレスへ転送するように設定できます。

複数に転送したい場合は、改行をして入力してください。

ログインしているユーザーでも受け取りたい場合は、「このサーバーのメールプールにも電子メールを残す」にチェックをしてください。

入力欄に入力後、「設定する」ボタンをクリックして設定が完了します。

メールパスワード

メールパスワードの設定を変更できます。



APOP に対応していないメールソフトをご利用の場合は、POP 認証ができなくなりますので、絶対に「APOP のみ認証可能にする」にはチェックをしないでください。

現在のパスワードと新しいパスワードを入力してください。

「設定する」ボタンをクリックして設定が完了します。

自動メール返信設定

ログインしているユーザー宛にメールが送られてきた際に、送信者に対して自動でメールを返信することができます。

例えば、休暇等でメールを確認できない際に送信者に任意のメッセージを送る等に利用できます。自動メール返信設定を有効にするには、「自動メール返信機能を有効にする」にチェックをします。

差出人、件名、本文 を入力後、「設定する」ボタンをクリックして設定が完了します。

バックアップ/復元

ログインしているユーザーのホームディレクトリ内のファイルをアクセスしているクライアントマシン上にバックアップ及びバックアップの復元がおこなえます。

画面上に、現在のディスク容量が表示されていますので確認の上、「実行」をクリックしクライアント上の適切なディレクトリを指定して保存をおこなってください。

復元をおこなうには、「復元」タブをクリックして画面を表示し、クライアント上のファイルを指定して「復元」ボタンをクリックしてください。

ユーザースタートスの表示

ログインしているユーザーのディスク利用状況を表示します。

表示される項目は

ユーザー名(ログイン名)

ホームのディスク使用量

メールスプールのディスク使用量

になります、ドメイン管理者より使用量の制限をされている場合は「/制限値」で表示されます。



自分が今、どれだけディスクを使用しているか、又はあとどれだけ利用できるか確認することができますので、HDE Controller にログインした際は常に確認するようにしましょう。

4. バーチャルドメインユーザー

3. ファイルマネージャー

ファイルマネージャーを利用すると、FTPクライアントを使用せずにログインしているユーザーの html ファイルをアップロードしたり、自分のホームディレクトリにファイルをアップすることができます。



複数のファイルを同時にアップロードすることはできません。

htmlファイルをアップロードするには

画面に表示されている public_html をクリックしてください。

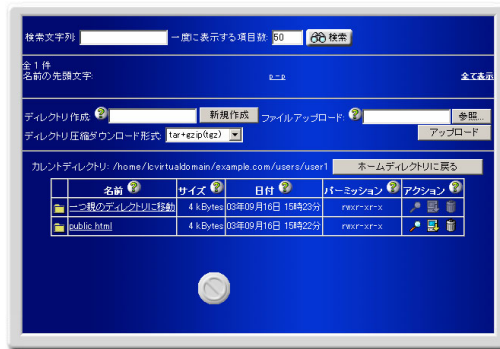


図.39: Default

カレントディレクトリが一つ下がり、
/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/users/ユーザー名/public_html に変わります。

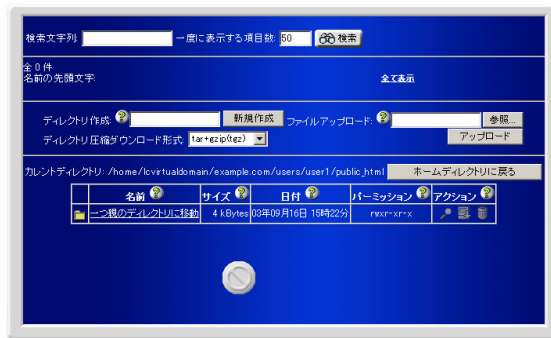


図.40: Public_html

クライアントに保存しておいた html ファイルを、ファイルアップロードに指定して「アップロード」ボタンをクリックします。



図.41: Public_html_index.html

画面にアップロードした html ファイルが表示されればアップロードは成功しています。



TOP ページを表示させるには、必ず index.html をアップロードしてください。

ファイルのパーミッションを変更するには

アップロードしたファイルのアクション欄にある chmod をクリックします。

選択したファイルの情報が表示されますので、「パーミッション」の適当な欄をチェックして「OK」ボタンをクリックします。

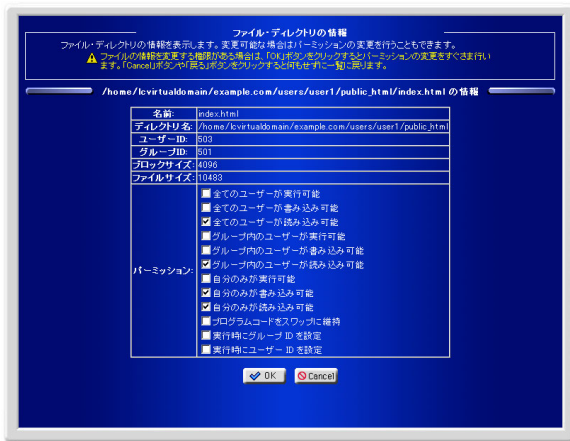


図.42: File_info

前の画面に戻りますので、パーミッションが変更されているか確認してください。

HDE Controller 3.0 ISP Edition
バーチャルドメイン運用ガイド
2003年9月16日 初版 3.0-001

株式会社ホライズン・デジタル・エンタープライズ
〒150-0047 東京都渋谷区神山町 16-2

